

新春座談会
2026

地元で働き、暮らすという選択 Uターンした若い世代のリアル

～鶴岡高専卒業生の場合～（下）

工学系高等教育機関・鶴岡工業高等専門学校の卒業生で地元就職やUターンを選んだ方々を招き、仕事や暮らしについて語り合う2026年の新春座談会。前回に続き、意見交換の様子を誌面で紹介する。出席者は、機械工学科（現・機械コース）卒の石井智久さん（石井製作所代表取締役、制御情報工学科（現・情報コース）卒の原田あすかさん（鶴岡高砂製作所）、物質工学科（現・化学・生物コース）卒の佐々木伸啓さん（フェルメクトス）、電気電子工学科（現・電気・電子コース）卒の佐藤智也さん（鶴岡高専助教）、鶴岡高専創造工学科教授で地域連携センター長の斎藤菜摘さん（順不同）。後半の話題は、Uターンの経緯、地元への意識、今後のビジョンなど。

新規事業の創出に挑戦を



いしい ともき
石井 智久 さん

1988年酒田市生まれ。2009年に鶴岡高専機械工学科（現・機械コース）を卒業。11年に長岡技術科学大学環境システム工学科を卒業。13年に同大環境システム工学科の修士課程を修了。同年、農業機械の開発販売を手掛ける家業・石井製作所に入社。15年6月から代表取締役

―地域連携センターについて紹介をお願いします―

斎藤 鶴岡高専の地域連携センターでは、本校の研究シーズを生かした研究協力や技術支援、技術相談、科学技術教育の推進に取り組んでいます。地元企業や自治体、地域の団体などと協力したさまざまな活動を通じて、鶴岡高専がこの地域をより良くすることに貢献する場をつくるのが地域連携センターの役割です。

この立場になって気付いたことは、本校の学生が地域の特徴、例えば文化でも産業でも住んでいる地域を自慢するネタをあまり知らないということです。知らないというよ

りは「すごい」ということを意識していないのだと思います。鶴岡は、食文化や新しい産業が集積しているという側面でも全国的にも特徴的で卓越した地域です。こういったことをどんどん発信し、鶴岡高専の若い学生にこの地域への愛着とプライドの醸成を促すことは、地域人材の循環を促すためにすごく重要だと思います。

―鶴岡高専の就職、進学状況を教えてください―

斎藤 鶴岡高専の本科5年生の進路では、就職が全体の6〜7割、専攻科や大学への進学が3〜4割となっています。卒業後に県外企業に就職する学生が多く、昨年度で

すと県内就職は2割程度でした。ですが、今回お話いただいている卒業生のように、県外でたくさん経験を積んで戻ってきてくれる人材がいま。大企業での仕事経験、地元から外に出て生活した経験を通じて、いろいろな物の考え方や見え方が変わってくるのではないかと思います。

鶴岡高専には庄内地域外や県外からの学生も多くいて、彼らが卒業後に鶴岡、庄内に就職するUターン人材も増えてきています。地元以外のことを知り、戻ってきてあらためて鶴岡の良さや課題をどう感じるのか、ぜひ皆さんに聞いてみたいですね。

―では、Uターンの経緯、地元への意識についてうかがいましょう―

佐々木 私の実家は農業を営んでいます。前職の頃も不定期で戻って手伝いをしていました。4年ほど前に身内の体調が悪いという連絡を受けて、もっと頻繁に手伝って



ささき のぶひろ
佐々木 伸啓 さん

1995年鶴岡市生まれ。2016年に鶴岡高専物質工学科(現・生物・化学コース)を卒業。18年に同専攻科の応用化学コースを修了。同年に日東電工株式会社に入社し品質保証部門に配属。22年にフェルメクテス株式会社に入社し生産管理や品質保証の体制構築に携わっている

学びと経験は若いうちに

ほしいという要望が生まれ、となると、宮城からだが大変だということでUターンを考え始めました。そこで研究室の指導教員と近況報告などの話をしているなかで、フェルメクテスのことを知りました。学生時代に所属していた研究室が、鶴岡サイエンスパーク内にあって、そこで活動していたので認識はしていましたが、鶴岡サイエンスパークで展開されている最先端の研究や事業、企業活動は世界的にも珍しいと思います。研究から企業活動に移行するスピード感が速く、どんどん技術革新して社会のために貢献できる施設ですね。

どうしても街の規模は小さいですから職種は限られるかな、給料も変わるかなと心配はありました。とはいえ馴染みがある環境ですし、身内も近くにいますし。どうにかなるだろうと考えました。

石井 私は事業承継という

ことになりましたが、迷いしかありませんでした。父親の体調不良や弱ってきた様子を見て、心の準備はなんとなくしてたんですけども。父親が亡くなつて脇で泣いている祖母を見た時に、自分が戻らないと家がダメになるなと思って思っ

たんですよ。それが大きな決断だったと思います。

原田 私は、地元就職をしていた交際相手と話し合い鶴岡に戻ることを決めました。就職活動の時点では地元に戻ることが考えていませんでした

が、人生設計を考える中で、生活環境や家族との距離を含めて検討し、将来について自分なりに折り合いをつけることができました。振り返ってみると、一度地元を離れ、5年ほどで帰ってきたことは私にとつてとても良い選択でした。

帰ってきた結果、やはり住み心地が良いです。10代の頃はあまりにも地元のことが見

培ったスキル生かし貢献



はらだ あすか
原田 あすか さん

1998年酒田市生まれ。2018年に鶴岡高専制御情報工学科(現・情報コース)を卒業。同年～22年まで本田技研工業株式会社に在籍し生産管理業務。24年に鶴岡高専製作所に入社し、生産管理部に配属

ようになりました。

また、私は退職後次のステップに進むまでの間に半年ほど東京で自分の時間を持つことができました。転職したからこそ、人生の夏休みのような期間を生み出すことができ、本当に私にとつて良い時間でした。都会は遊びに行く場所だというところに思い至り、一度休憩を挟むのもありだと感じました。学生の時はいつさい考えなかった選択でした。

一方、周囲を見渡すと、Uターンしたくても簡単には決断できない人が多いと感じます。給与や働き方の条件に差があると、地元に戻る選択はどうしても難しくなり

ます。実際、高専時代の同級生

にも、県外で働きながら「い

ずれば地元に戻りたい」と話

す人は少なくありません。都

市部との条件面のギャップが

縮まればUターンは活性化す

る

る

る

る

人間力ある技術者を育成



さとう ともや
佐藤 智也 さん

1994年鶴岡市生まれ。2014年に鶴岡高専電気電子工学科(現・電気・電子コース)を卒業。16年に専攻科の同機械電気システム工学コースを修了。18年東京工業大学(現・東京科学大学)物質理工学院材料系を修了。同年に東日本旅客鉄道株式会社に入社。秋田車両センター、奥羽本線・田沢湖線の車掌、若手社員育成などを担当。25年に鶴岡高専創造工学科の電気・電子コース助教に就任

るのではないのでしょうか。

佐藤 20代前半の頃には「地元で就職する」「地元に戻る」というのはほとんど意識していなかった、というのが正直なところです。総合職である以上、基本的に2、3年で転勤があり、転勤先や職責によつては高い頻度で帰ってくることもできない。その中で親のサポートや自分の生活、ライフプランなどを考えるとUターンという選択肢が現実味を帯びてきました。

一方で、いざ鶴岡高専に戻るとなった時には不安はありました。教員になれば講義や研究活動もあるので、本当に今の自分にできるのか?とも悩みました。ただ、知っている先生方も多いですし、母校でもあるので思い切つて飛び込んでみようと思ひしました。

― 地元に住み、働くという部分の実感はいかがですか
佐々木 冬の雪ですね。私が住んでいた宮城でも降る

時は降るのですが、交通の不便は実感しますね。実家のある櫛引地域はかなり積もります。車を出す時にはシャベルで雪かきをひと通りやららないといけません。

佐藤 冬はやはり東京や仙台の方が過ごしやすいですね。晴れも多いです。ただ、人混みの中で生活している圧迫感がなくなつて、ストレスは減つたと思います。平日は満員電車で通勤し、休日に車で出かけようとしても基本渋滞。田舎、たつたら数分で行ける距離なのに、東京ではどれだけかかるの? という具合。鶴岡に帰つてくれれば緑もあるし、海もあるし、気持ちよく車で走れるし。鶴岡で

の日常が都会では当たり前でなく、仕事に注力するために生活する環境は重要だったんだな、とあらためて気付きました。

原田 冬の話が出ましたけど、最近の関東を見ていると夏は暑すぎて住みにくそうです。庄内の夏も暑いですが、電車通勤がない分、暮らしやすいかもしれないですね。

佐々木 私の場合、地元には不便はあまり感じませんね。その場にあることである程度満足できてしまうんです。本当に暇だとなつたら休みを取つて旅行に行ったりします。遊びとか楽しいことは、探せばあると思います。自分が今までやってこなかったこと、他の人がやってる面白そうなことなどの中から。

石井 経営者の目線で見ると、関東圏に行かないと手に入らないものというところ、それは圧倒的に人脈と情報です。仕事をする上で東京事務所を構えようかなと思うぐらい。

これはぬぐえない差だと思います。ただ、地元の何がいかというところ、やはり人柄でしょう。地域の柄や肌感の合う合わないは、人それぞれあるでしょう。どこに行つてもその地域独特の癖みたいなものがある。庄内、たつたらちよつとスローな空気感みたいな。私はそこにすぐ落ちて着く感覚があります。

私は20代から30代前半ぐらいまでアウトドア、インドア問わず、いろいろな遊びを楽しんできましたが、子どもが生まれたということもあり、楽しみ方が変わってきました。自分の人生をどう楽しむかということと共に、子どもたちの幸せをどのように作っていくかとか考えるようになっていました。そうなるとうちと地方というのは意外に良いと思つています。

― 地元暮らし、今の仕事を通じてこれからどのようなビジョンを持っていますか

原田 今の仕事では、自分が培ってきたITスキルや生産管理の経験を生かして職場の効率化に貢献し、より良くしていきたいと考えています。目の前にあるやるべきことや仕事に対し、与えてくれた人が満足できる成果を出せる人材になれるよう、一歩一

地域への愛着と誇りを育む



さいとう なつみ
斎藤 菜摘 さん

群馬県出身。1996年に東邦大学薬学部薬学科を卒業。2003年に同大学院薬学研究科博士課程を修了。同年に慶應義塾大学・先端生命科学研究所特任教員。13年に鶴岡高専物質工学科准教授。24年に同創造工学科教授。25年から副校長、地域連携センター長。研究テーマは環境の未培養微生物の探索、食品主原料として利用可能な「納豆菌粉」の開発

鶴岡高専Uターンサイト

鶴岡高専卒業生・修了生の地元での再就職をサポートし、地元のものづくり企業の中途採用活動を支援するサイト。鶴岡高専の研究開発力の向上と、地元のものづくり企業との連携をバックアップしている鶴岡高専技術振興会（会員企業 190社）が2024年度から運営している。

鶴岡高専 OB・OGと同会会員企業がユーザー登録することができ、企業求人と求職者情報の閲覧、検索が可能。

スカウト機能を活用することで、自身を求職者リストに表示させてアピールできるほか、企業側からチャットで直接コンタクトを取ることもできる。

サイトの二次元コード▶



歩取り組んでいきたいと思えます。

佐藤 私は鶴岡高専の教員として、世界に通用する技術者を育成すること、人間力をしっかりと身に付けてもらうというところをがんばりたいと思っています。前職で採用や若手の育成に携わっていた際に、新卒採用者や学生の特性が、これまでとは少し異なってきた感じがありました。どれだけ高い技術力があっても、互いに協力し合い信頼を築こうとする姿勢がなければ、真に社会で活躍することはできません。そのためにも、私は技術力のほか人間力も在学中に高めることが社会人としての可能性をさらに切り拓くことにつながり、振

り返つた際に「鶴岡高専で良かった」と思ってもらえるよう、研究・教育活動に取り組んでいきます。

佐々木 今勤めているフェルメクテスはスタートアップの企業で、けっこう少数精鋭な部分があつて。いろいろな業務を兼任している部分があり、人材を求めています。社会経験があつたり、技能や技術を持つている人がUターンやイターンの形で入ってくれるとありがたいですし、関心のある方がいれば積極的に触れ合える機会を持ちたいです。自身では会社の発展にいつそう貢献したいと思えます。これから進学、就職する方々には、若いうちにより多くのことを学び、経験し、吸



母校の教壇に立つ佐藤さん
前職での若手育成の経験も生きている

収し、自分の成長につなげてもらいたいですね。

石井 自分が学んできたこと、やってきたことがどこでどんな形で生きてくるのかは分かりませんからね。あの時は全然意識していなかったけれども、今思うとやっておいで良かった、ということがあります。年齢を重ねた今になると感じます。

私のこれからの展望について。まず会社としては、これから社員の待遇改善を進めた。従業員のみんなには苦勞をかけたんですよ。父が亡くなり、工場が火災になつて。立て直したと思つたらコロナ禍。米価が下がって離農が増える事態になつたと思つたら昨年は高騰しました。当社の農機関連事業としては利益を出せる態勢に持つてこれるので、いよいよ従業員に還



秋田の釣り堀にて息子と初めての釣り。
この日は8匹も釣れました

元していく。さらに、関東圏に引けを取らない人材に育てていきたいと考えています。私自身としてはこれまで、事業再生、既存の業務や仕事の効率化と収益化に特化してきたので、これからの5年は新規事業の創出にトライしてみたいですね。農業やものづくりの分野で地域の課題解決に取り組みながら、地元から発信できる新しい価値を作っていきたい。思い立つたら何か会社や組織を作つて動く、そんな経営者になりたい。地域を良くしなきゃという義務感だけではない。好きなことを自由にやりながら、結果的にそれが何か地域の役に立つたという感じの生き方をしたい。という夢を描いています。

地域の技術力と高専の知をつなぎ、次の時代へ。

鶴岡高専技術振興会は、高専と地域企業との連携を促進し、
地域の産業発展に向けて研究教育活動を支援します。

【地域企業連携強化事業】

- ・産業技術フォーラム：最新技術の共有
- ・地域企業と高専が参加する研究活動への支援
- ・技術相談・企業訪問：現場の課題解決をサポート
- ・ものづくり支援：セミナーを通じた人材育成

【研究開発推進・学生支援事業】

- ・学術研究と教育活動の充実発展に対する支援
- ・市民サロン：高専の教育研究をわかりやすく紹介
- ・学生のものづくり研究や学会等への参加支援



新入会員
随時募集中

会員数 190 社

(2025 年 12 月末)

◀ 鶴岡高専技術振興会の WEB サイトです。事業の詳しい内容や入会案内がご覧いただけます。

【情報提供事業】

- ・鶴岡高専の研究 PR 活動

鶴岡高専 **Uターン**
OB・OG 専用 サイト

地元採用の新ルート。
鶴岡高専 OB・OG に直接届く Uターン 求人。



◀ 会員企業による鶴岡高専 OB・OG 限定の中途採用求人情報を掲載。ユーザー登録をしてご利用ください。

鶴岡高専技術振興会

事務局 / (公財) 庄内地域産業振興センター内 TEL.0235-23-2200 (代)
〒997-0015 山形県鶴岡市末広町 3 番 1 号 FAX.0235-23-3615